

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3271600458		
法人名	有限会社 美奈須		
事業所名	グループホーム萌		
所在地 (電話番号)	島根県簸川郡斐川町大字学頭1322-1 (電話) 0853-73-7170		
評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地 松江市民活動センター3階		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	平成19年9月6日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月 11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.9

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

### (4) 利用者の概要(8月 3日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	57 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院・斐川生協病院・原歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農村地域にある強みを発揮して大きな畑を持ち、居間から見えるところで合鴨を放した稲作を行っている。生活暦やシートにより利用者の意見や要望が把握され、家族とのカンファレンスも取り組まれている。管理者だけでなく職員も地域の関係者を訪問するなど「開かれたホームづくり」が追求され、家族会運営にも工夫が見られる。事務も含め職員間の協力や前向きな姿勢があり、管理者の「寄り添う」「言動の背景を考える」の考えの下、利用者本位のケアが進められている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>身体拘束のないケアの実現、身体機能の維持のための個別支援、地域の人たちとの交流の促進など、職員研修や検討を通し、ベットの廃止、嚥下体操や足上げ運動の導入、運営推進会議や地域との連携強化が図られ交流が活発となるなどそれぞれ改善されてきた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価検証確認書ノートが活用され、非常勤職員も含め職員全員が自己評価票に基づき担当項目を分担し月一回のミーティングの場で振り返っている。外部評価も早くから全職員で取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>外部評価やホームの現状報告をはじめ地域や家族・医療機関との連携・行事計画・防災訓練などが検討されている。参加者の意見から訪問のない家族に対し家庭訪問を実施するなど、有意義で活発な討議が行われ地域との交流が広がっている。会議録は簡潔明瞭に記載されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には報告や意見聴取が行われ、利用者の一ヶ月の様子を経日的に記入したもののケアプラン・写真などが毎月家族に渡されている。家族会も参加者主体へとコーディネート・工夫したことから多くの家族が参加するようになり、出された意見や要望はケアや運営に反映され、日頃の家族同士の交流へと進展してきている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の諸行事に参加しボランティアを積極的に受け入れている。運営推進委員や民生委員の協力や職員の関係施設への月一回発行するもえつうしの配布を通しての交流などから連携が進み、地域活動への参加範囲が広がっている。地域密着型理念も追加され、あり方も追求されているが、地域向け広報誌の発行はこれからの課題となっている。</p>

## 2. 評価結果

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレットなどに分かりやすく明示され、みんなで考えた地域密着型サービスを踏まえた理念も追加されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は廊下やトイレなどホームのあちこちに掲示され、一日一回の唱和により職員で共有されている。日々のケアが理念に沿ったものとなるよう各自に目標を持ってもらうなど実践の中でも確認合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の諸行事に参加したり、ボランティアを受け入れるなど交流が活発である。地域担当の職員を決め関係先を訪問したり、電気製品の購入修理や外食は地元の店を利用するなど地域との交流に努めている。	○	地域向けの広報活動はこれからの課題となっている。地域性も考慮し、プライバシー保護を工夫するなどしてホームの活動状況を地域へ発信して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価検証確認書ノートが利用され、非常勤職員も含め職員全員が自己評価表に基づき担当項目を分担し、月一回のミーティングの場で振り返っている。外部評価も早くから全職員で改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況や外部評価の報告、地域や家族・医療機関との連携・行事計画などが協議されている。委員の意見から訪問の少ない家族に対し家庭訪問を実施したりと意見や要望が運営に生かされ、地域との交流が広がってきた。会議録も簡潔明瞭に記載されている。		

事業所名 萌

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や総務担当者が町役場に出かけ、相談したり助言をもらっている。行政職員も運営推進会議への参加だけでなく、ホームを訪問するなど連携が進んでいる。介護サービス事業者連絡会に参加したり、町主催の研修会にも積極的に参加して交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族来訪時には報告が行われ、利用者のホームでの一ヶ月の様子が経日的に記載されたもの・金銭預かりノート・往診時の記録・ケアプラン・写真などが家族に渡されている。家族に利用者との一緒に時間を過ごしてもらうよう行事への参加案内も必ず行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時には職員による速やかな対応が行われ意見要望を引き出すような働きかけが行われている。家族会も参加者主体の工夫により出席が多くなり、日頃の家族同士の交流も活発となってきた。要望ポストが各階に設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットあることから時折異動があり利用者や家族に報告したり、「もえつうしん」により新採用職員を紹介している。管理者や職員は馴染みの関係や継続したケアの重要性について理解している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム外の研修参加や伝達講習をはじめ、かかりつけ医や看護師による医療に関する学習会・運営委員の講演にも取り組んでいる。各職員に理念に沿った小さな目標設定による日常教育も行っている。資格取得後の支援も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・総務担当者・地元の職員が同業者をはじめ関係者に毎月一回「もえつうしん」を配布したり、ケアマネ会議や事業所連絡会などに積極的に参加したりして交流を深めている。同時期に開所した事業者と交流を持ちサービス向上につなげている。	○	さらにグループホームとの交流を積極的に持たれ、地域全体のサービスの向上に寄与されることに期待したい。

事業所名 萌

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的に2週間の体験入所期間を設け、本人の納得や安心を見極めてから受け入れている。入院や施設に入所している場合にも職員が会いに出向き、馴染みの関係作りを大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	山菜や竹の子の処理の仕方や洗濯物の干し方などで助言をもらっている。職員が困っている時にはさりげなく手伝ってもらったり優しい言葉掛けがあるなど支えあう関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「介護計画作成のためのお願い」による希望や意見収集をはじめ、日常の会話や言動からも本人の思いや意向を把握している。家族や利用者を交えたカンファレンスが開催されはじめ、一人ひとりの意向把握に努力している。	○	利用者や家族を交えたカンファレンスを定着させ、さらに本人の希望や意向に寄り添って頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	関係者や家族、時には利用者が参加したカンファレンスが行われ、文書に記入された家族や利用者の意見や希望なども参考に、介護計画が関係者との話し合いで作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の見直しとともに、利用者の思いや意向・体調変化のある毎に見直しが行われている。見直し後の介護計画は都度家族に配布されている。		

事業所名 萌

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の同行をはじめ、看護師との連携による健康管理も実施され、外出や外泊支援も行われている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による週2回の往診がある。必要な医療機関への受診の際には職員が同行し、ホームから連絡票を作成し医師との病状の共有を図っている。家族に立ち合ってもらい、医師から直接病状などを聞いてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りの指針があり経験もある。入居時に終末期のあり方を家族聞いているが要望は多く、重度化した場合には意思確認書を作成し、利用者や家族の思いに沿うような支援を行っている。医療系の学習も行われ職員間で方針が共有されている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重した言葉掛けや対応となっている。気になることがある時には周囲の職員の助言がある。記録類も取り扱いに注意され、「もえつうしん」やホーム内への写真掲載も家族の了解が取られ個人情報にも配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞を購読したり、夕食前に晩酌をしたり、自分専用のコーヒーセットでコーヒーを飲んだり、カラオケを楽しんだり、ビーズアクセサリーを作ったりと、利用者が自分のペースで楽しみながら過ごせるよう支援している。		

事業所名 萌

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が料理の下準備や配膳・食後の片づけなどを行っている。職員は同じものを同テーブルと一緒に食べ、味付けや硬さについて和やかに意見交換している。職員への食費支援がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一階には岩風呂温泉、二階には家庭的な風呂があり、日曜日以外毎日希望する時間帯に入浴できる。夜間入浴時間帯は夜勤者2人で希望者に対応し、生活習慣継続へと可能な限りの支援に努力されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業経験者の生活継続のためにと「合鴨農法による水田」が作られたり、ホームの隣接地に大きな畑が購入されている。料理・食後の片付け・食器拭き・生け花・カラオケ・晩酌・ビーズアクセサリー作り・草取り・野菜の収穫などさまざまな支援がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関ホールには職員手作りの大きな「お出かけマップ」が掲示され、散歩の際の行き場所決めに活用されている。当日天候や体調に合わせて出かけている。大鍋持参の戸外弁当デイもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	面会時間の設定はなく家族が仕事後にホームに立ち寄れるよう玄関は21:30頃まで開錠され自由な出入りが可能であり、センサーもない。居室も鍵は使用せず自由な生活が確保されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で年2回の避難や消火器の使用方法などの訓練を受けている。近隣の施設の例を参考にしたり地域消防団や自治委員の災害時の協力要請も行っている。	○	災害時の備蓄品の確保に早急に取り組んで頂きたい。地域の協力者との合同避難訓練の具体化や職員による頻回な避難誘導訓練などの取り組みにも期待したい。

事業所名 萌

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導により重複献立や治療食は改善されつつある。塩分濃度については利用者の食欲や家族の要望なども考慮して提供している。食事量や水分摂取も把握され記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームのあちこちに生花が生けられ、居間には週刊誌や雑誌が置かれている。一日2回の換気やテレビや音楽の音にも配慮され、心地良く過ごせるような環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やベット・椅子・ソファーが持ち込まれ、配偶者や孫・本人の誕生祝いで撮った親族の集合写真などが貼られていたり、入居者が自分で作っているビーズアクセサリーが飾られている。		